

# 総会アピール(案)

2011年3月11日、東日本巨大地震による地震と津波が福島第一原発を襲い、日本の原発史上最悪の事故が起きました。原発の「安全神話」は崩れ去り、大量の放射能が海・空・大地を汚染し、人間を含む生物や環境に大きなダメージを与え続けています。今もなお多くの人々が故郷を奪われ、肉体的にも精神的にもさらに経済的にも多くの苦難を強いられています。1年以上が過ぎてもなお、事故の収束には至らず、事故に起因する核廃棄物問題や瓦礫問題、農水産物問題など様々な問題が噴出し続けています。

私たちはこれまで「核と人類は共存できない」と繰り返し訴え、反核・脱原発・ヒバクシャ連帯を基本に「核社会」がもたらす負の側面を告発してきました。そしてフクシマの事態を前に「核社会」からの離脱を一層強く訴えてきました。「核社会」は人類の生存そのものに関わるものであり、福島原発事故から1年が過ぎた今、「核」が人類に与える脅威はますます鮮明となっており、核兵器や原発がもたらす「核社会」からの早急な離脱が求められています。

しかしながら、核兵器が世界に2万発以上も存在し、米ロ英仏中の5ヵ国以外にも核が拡がるなど、人類に核の恐怖を与え続けています。核兵器廃絶までの道のりは未だ陰しく厳しいものがあるものの、人類にとって命の基本にある課題であり、核廃絶・核軍縮の動きを促進させることが極めて重要となっています。

核被害に軍事利用や商業利用の区別がないことがフクシマによって明らかになった今、ヒロシマ・ナガサキービキニーJC0ーフクシマと続く核被害の中で、新たなヒバクシャが生み出されている現実を見つめなければなりません。ヒロシマ・ナガサキの被爆者は67年たった今も多くの苦しみを抱えており、福島原発事故でヒバクした人々への様々な支援が必要とされています。

福島原発事故によって、これまでの日本の原子力政策やエネルギー政策の根本的な変更が求められています。原発推進派がその力を背景に「核社会」の温存を図ろうとしている中、もう決して核被害を起こしてはならず、既存の原発の廃止と脱原発に向けて新しいエネルギー政策を大胆に打ち出さなければなりません。今こそ「核と人類は共存できない」「武力で平和はつくれない」とする原水禁運動の原点を踏まえ、平和・軍縮・核兵器廃絶・脱原発・ヒバクシャ援護連帯など、これまで原水禁運動として積み上げてきたものを具体化・前進させる時です。

「広島・長崎・福島の惨事」を次の世代に語り継ぎ、核兵器廃絶・脱原発社会の実現と子どもたちに核のない未来を約束するために、富山から全国や世界の仲間と共に心を一つに「ノーモア・広島、ノーモア・長崎、ノーモア・福島」の声を上げましょう。そして、核兵器廃絶・脱原発の願いを大きく広げましょう。

2012年 8月 1日

**原水爆禁止富山県民会議第26回定期総会**